

静岡図書館友の会 会報

2020.9
Vol. 24

「待てない時代」の発想



国立大学法人 静岡大学 人文社会科学部 客員教授・
ふじのくに文化情報センター長 平野 雅彦

この春、1年かけて司書資格を取得しました。還暦を前に、今から司書を生業とするつもりはありませんが、なぜこの資格に挑んだのかといえば、5年前、学芸員の資格を取得して、馬齢を重ねてこそ目的をもって学び直すことの重要性を身をもって知ったからです。

わたしは、長いこと文化庁の事業や大学の授業を通して、公立美術館とも積極的に協働してきました。加えて二つの美術館・博物館の運営協議会の委員を10年以上務め、大学ではアートマネジメントという学問を指導しつつ、いくつかの地域芸術祭の運営にも携わってきました。また、静岡市立図書館協議会の委員を12年間、同協議会の会長を2年間務めました。そのため少なくともある程度は現場のことも分かっていて、各施設の社会的役割や課題も知っていました。いや、知っているつもりになっていました。

ところが、いざ学び始めると、知らないことが次から次へと出てくる。学べば学ぶほど、これまでの厚顔無恥な自分が恐ろしくなりました。あの時、よくあんな偉そうな発言をしたものだ。よくあんな修羅場を潜り抜けてきたものだ、云々。これらの羞恥心が学びに拍車を掛けたのでした。

そうして曲がりなりにも短期間で二つの学びを修め、結果、対象となる実際の課題と向き合うとき、学芸員と司書の両分野に発想の橋が架かることがある。この視点の獲得は大きな収穫でした。

ところで、この新型コロナウイルス禍にあって、「当たり前」とは何かをよく考えるようになりました。何かの折りにわたしたちは尊敬の念を込めてこう口にします。「あ

の人は、当たり前前のことをきちんとやり遂げてすばらしい」と。しかし、この当たり前前が自分ごととなった瞬間存外難しい。なぜなら私たちは消費社会を舞台にすぐにパフォーマンスしたがるし、そうする人を高く評価したがるクセを獲得してきたからです。その背景には、短い尺(時間)でしか物事を見なくなっている文化の評価軸といったものの蔓延があると観察しています。

私たちは短い時間の中でより高い評価を得るために効率よくパフォーマンスする術を身につけたのです。これは実に罪深い。要は我々の価値観はいつの間にか、早いことがすばらしい、に変化したのです。裏返して言えば、「待てない時代」をつくりあげたのです。

それならば、この「当たり前」を図書館の運営に当てはめてみたらどうか。もちろん、無難にルーチンワークをこなせばいいのではなく、大事なものは何百年と商いを続けている老舗が、今日掛けた暖簾と明日掛ける暖簾とでは、意味がまったく違ふと意味づけている点に学ぶということです。伝統こそが革新なのです。

更に喩えるなら、雅楽が使う楽器は数百年先の人のために今弾き慣らしていると考え。陶芸でも三代先が安定して作陶できるように今土を集めておく。大切なのはこの長さの取り方です。今こそ、評価の方法を長尺に持ち替えて、時代の空気を注意深く読み、利用者のニーズに応える図書館の在り方をよく考えたい。

大切なことを書き忘れるところでした。ハヤリコトバの「にぎわい」です。この聞き心地のいい言葉に惑わされないこと。図書館には、図書館にふさわしい「にぎわい」があるはずで、きっと。

ちひろ美術館にいたころ

絵本専門士 山崎 あずさ

冬の朝、静けさに目が覚め、嫌な予感にカーテンを開けると、窓の向こうは一面の銀世界。ああ、今朝は出勤前に雪に埋もれた車を掘り起こさねば、と少々うんざりしながらスキーウェアを着込む……。スキーウェアに長靴が冬の定番通勤スタイルだったのは、私が信州の安曇野ちひろ美術館にいたころのことです。



ある冬の朝。画面手前、雪に埋もれているのはガードレール

長く厳しい冬ゆえに、訪れが一層待ち遠しく、嬉しかった信州の春。初夏の水田に映り込む雄大な北アルプスとカエルの大合唱。夏の湿気のないカラッとした暑さは心地よいとはいえ、標高が高いがための紫外線の強さはなかなかのものでした。お盆過ぎの風は既に秋の涼しさをまとい、山から紅葉が下りてくると待つてましたの新そばの季節です。言うなれば、静岡の新茶イコール信州の新そば。時期になるとソワソワとしてしまうのです。そうして駆け足に秋が過ぎ、山々が白く冠雪し、仕事帰りの温泉が恋しくなる冬が再び巡ってきます。美術館の仕事に忙しくしながらも、安曇野での暮らしは季節の移り変わりを肌で感じる日々でした。

安曇野は、子どものころから父の転勤でひとところ長く住んだことのない私が、初めて10年を超えて暮らした地です。いわさきちひろにとって、両親の出身地でもあり、幼少期から親しんでいた信州が心のふるさとであったように、私にとっての安曇野もそう言えるかもしれません。でもそれはその土地で過ご

した時間の長さだけではないのでしょう。

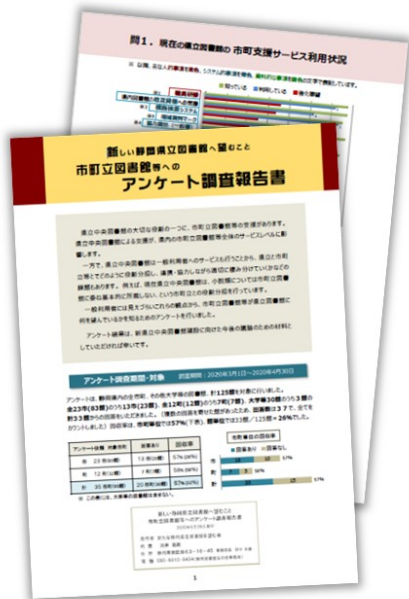
美術館に勤めて数年たったころ、地元の小学校、図書館、美術館が連携して子どもたちと絵本を作るという活動に関わりました。子どもたちが、図書館と比べるとちょっとだけ遠い存在の美術館にもたっぴり親しんだ時間でした。昨年、お世話になった司書の方にお会いし、当時小学1年生だった彼らが今や中学生となり、夏休みの美術館でのボランティア活動に参加したことを伺いました。私たちが歳をとるわけだと月日の経つ速さを笑いつつ、地域の図書館や美術館・博物館が子どもたちを育む大切な場所のひとつであり、その繋がりを地道に長く継続していく意義を改めて感じました。そしてふと思ったのは、恩恵を受けたのは自分自身でもあったなあということでした。

もともとよそ者の私ですが、いわゆる美術館の「教育普及活動」として前述の活動のほかにも様々なかたちで地域の方々とご一緒する機会に恵まれました。それまで流浪の民的な人生だった私にとって、地元にとっぷり浸かるというのは、実はとても新鮮で未知の経験だったのです。振り返ると、多くの人との出会いを通し、たくさんのことを学び、そして育てていただいたものだとしみじみ思います。知らず知らずのうちに、地域の間人という自覚も培われたのでしょう。年月だけでは語れない、心のふるさとという思いは、こうしてちひろ美術館にいたころ、安曇野の風景とともに心に刻まれ、子どもの本に多少なりとも関わる今の私の毎日につながっています。

さて、信州はもうすぐ蕎麦屋の店先に「新そば」の文字がお目見えするところです。新米にりんごにキノコにと美味しいもの盛りだくさんの安曇野の、もっぴら食欲の秋に思いを馳せながら、まずはちひろ美術館から作品がやって来る、静岡市美術館での赤羽末吉展を楽しみにしている今日このごろなのでした。

「新たな静岡県立図書館を望む会」からの報告

市町立図書館へのアンケート調査



「新しい静岡県立図書館へ望むこと」に関するアンケート調査を市町の図書館あてに実施しました。結果をまとめた報告書は、6月中旬に県会議員、関係行政、県教育委員などに配布しました。期待される支援の主な点は下記のとおりでした。（詳しくは、しずともHP参照。会員の皆様には報告書を同封しました。）

- 求められる**支援サービス**は、
職員の人材の充実・育成
県内図書館を一体的に運用するサービスシステムの充実 等
- 期待される**資料**は、
専門書・地域資料・高額書や雑誌バックナンバー
市町立にはできない資料収集・保存 等
- 求める**施設**は、
地域資料のデジタル化のための設備、研修施設、多目的ホール、公文書館的施設、物流センター、デポジットライブラリー（共同保存図書館）等。

知事・教育長・議長への要望

コロナ禍での財政逼迫による施設の見直し事業の中に「新県立図書館建設」も入っていたことから、8月11日に下記の項目の要望書（要約）を県知事、県教育長、県議会議長あてに提出しました。

1 「新県立中央図書館基本計画」に沿った新県立図書館の早期実現

老朽化の著しい現在の県立図書館は床のひび割れを補修したとはいえ、書庫の狭隘化のため87万冊の蔵書のうち20万冊はいまだに使えず、県民へのサービスばかりか市町立図書館への支援も十分には行えない状況にあります。

今回、コロナ禍でやむなく利用が制約されたことで、すべての人に日常的に読む楽しさと知る喜びを保障する図書館の存在価値とともに、県民が出会い、交わり、新しい文化を育む図書館の必要性も再認識されました。基本計画どおりの面積を確保し、新県立図書館の建設を遅らせることなく進めてください。

2 県立図書館として県内市町立図書館を補完し、県民のニーズに応えるための資料費の確保と、それに沿った新たな資料収集計画の策定

今春当会が実施したアンケートからも、市町立図書館からの県立図書館への信頼と期待の大きさがくみ取れました。県全体での図書館サービス水準を維持し、県民の知的環境を底上げしていくためには、県立図書館を中心としたネットワークの確立による市町立図書館支援がこれまで以上に重要となります。そして、そのために不可欠な新たな県立図書館にふさわしい資料費の確保と新たな資料収集計画の策定を求めます。

3 感染症流行や自然災害などの危機を乗り越える先進的な図書館サービスを可能にする体制と建築

危機の局面においてこそ、情報と資料の収集・発信基地となり交流の場となる図書館を必要とします。

コロナ禍後の時代においてはデジタル化の環境が身近になると言われていますが、市町立図書館ではそれに即応することが難しいため、県立図書館がその機能を担うことで、すべての県民が市町立図書館を通じて高度な情報サービス享受することが可能となります。

一方、今まで以上に、多様な本や情報に直接触れたり、それらを介した人との出会いと交流の必要性が高まることも予想され、その対応も期待されています。

正岡子規は興津を墳墓の地とまで考えていた

次郎長翁を知る会 会長 山田 健司

正岡子規(1867-1902)は病氣療養で清水の興津への移転を切望して、興津を想い興津行きを夢に見ながら果たせることもなく36歳の短い生涯を終えた。この興津移転の話はあまり知られていない。

子規は明治23年、友人三人で江尻宿の「大久し屋」に泊り、翌日三保松原を訪ねた。羽衣を見たいと御穂神社に行き懇願して羽衣ならば衣だと思っていたが、小さな箱の中には黒い毛のごときものがわずかばかり残っていて、これが羽衣かと驚いたと「しやくられの記」で書いた。子規が清水へ来た最初だった。

それから10年後の明治33年、子規は東京根岸の子規庵で結核性カリエスの難病に苦しみながら、俳句革新への気力と意志は衰えを見せず励んで句会を開いていた。

夏目漱石が留学することになり寺田寅彦と訪ねて来た日の夜、伊藤左千夫が子規の好きな野菊の鉢をたずさえて見舞いにきた。子規の病状を気遣って、左千夫は一度訪ねたことがある興津の地は、風光明媚な景色と温暖な地で海の幸山の幸の豊富な場所への転地療養をすすめた。

東京での冬越えは苦痛だったから子規の心を動かした。その夜子規は眠れなかった。翌日、高浜虚子に相談し、恩人の陸羯南(新聞「日本」創作者で子規の東京生活の世話をしていた)や主治医にも打診して、二人の叔父たちにも手紙を書いて出した。子規の心は興津へと動いていた。

東京に遠くさまざまな困難があったが、子規の希望がかなえられるようにと弟子の加藤雪腸(庵原小学校長)や河東碧梧桐(四国松山出身虚子と同級生)は事前に興津を訪ねた。海辺には岩礁が目前にあり三保の松原が眺望できる東海道沿い(国道一号)の松川医院(河村医院)の院内見取図を添えて子規に見せた。碧梧桐からまだ見ぬ興津の地の素

晴らしさを知って心は揺れ動きながらも、興津を墳墓の地とまで考えるようになり夢にまで見てすでに心は興津の地にあった。

この子規の心境を虚子は「柿二つ」のなかで、興津移転のわけは気候や空気にもあったが一人ではぼんやりと考えていると、興津には野菊がたくさん咲いていそうな心持ちがしていたと書いている。子規にとって興津問題は絶望から抜け出して生きる希望の世界を描き出すのに野菊に象徴されていたのだろう。

しかし興津移転は周囲の反対で中止となってしまい一場の夢となった。

明治35年病状は悪化していたが、病状六尺、これが我世界である。から始まる『病状六尺』を5月5日から9月17日まで書き続けて2日後に東京根岸の子規庵で息絶えた。

没後100年平成14年(2002)9月19日の命日に、興津への移転を夢見て逝った正岡子規を偲び子規の想いを少しでもかなえようと、有志で興津清見寺前の清見瀉公園東端に句碑を建てた。子規のふるさと四国松山市から野菊をわざわざ持ってきて



句碑のすぐ際に植え、また周辺には興津産の野菊を植えた。

あれから18年が過ぎて野菊は残念ながら枯れてなくなりましたが、句碑は子規の想いを受け止めて立っている。

月の秋 興津の借家 尋ねけり

子規

文学の中にある「色」を探す

香色（印刷により色が若干変わります）

染織家 稲垣 有里

「香染」という言葉をご存知でしょうか？香染（こうぞめ）とは、香料である丁子（クローブ）の蕾の煮汁で染めた色で、黄みの褐色（ベージュ）、別名「丁子染」とも呼ばれ、染めてしばらくは丁

丁子染めの手織りのストール(部分)

子の香りが残ります。染め色は地味な染料にも関わらず、「淡き香」「香色」、濃く染めると「濃き香」あるいは「こがれ香」と呼ばれ、源氏物語や枕草子にも登場、平安時代の西宮左大臣源高明が名付けたといわれています。

『源氏物語』第三十三条 藤裏葉

大臣は、薄き御直衣、白き御衣の唐めきたるが、紋けざやかにつやつやと透きたるをたてまつりて、なほ尽きせずあてになまめかしうおはします。宰相殿は、すこし色深き御直衣に、丁子染めの焦がるるまでしめる、白き綾のなつかしきを着たまへる、ことさらめきて艶に見ゆ。

「丁子染めの焦がるるまでしめる」は丁字でこげるほどに薫物香を染ませたという訳もあれば、丁子を茶色に見えるくらいまで何度も染め重ねた物という訳もあります。源氏の美しさにそっくりの息子夕霧の若さが重なり、贅を尽くした色からは馥郁とした香りを連想させられます。実際に染めるときも丁子の袋を開いただけで、アトリエ中に香りが広がります。コトコト…静かに一時ほど煮て染めるのですが、至福の時間です。香りと色が一緒に記憶されるのか、地味に感じないのが不思議です。

染織の勉強を始めた頃、「昔の人はどうやって色を染めていたのだろう？」という素朴な疑問を持ちました。その答えを探していたら、「染織家」という仕事に辿り着き、今に至ります。

現在、私達は好きな色が自由に選べますが、自然から得られる色はベージュやグレーなどがほとんどで紫や赤は希少、その色を纏うことは権力と富の象徴でした。自然の中にある色素は微量です。それらを集めて堅牢で美しい色を染めることは至難です。有史以来、人類は経験の中から学び、植物、動物（虫や貝）、鉱物（石や土）など、地球上の様々な物から色を染めてきました。

時々、「なんでも染まりますか？あの街路樹とかどうです？」と聞かれます。その答えは染料になる植物を野菜や果物に比べてみるとわかりやすいと思います。野菜や果物は栄養価が高く美味しく見た目もきれいで育てやすい、人間にとって有用な植物が選ばれました。同じように、染料になる植物も栽培・採取しやすく、少量でも堅牢で濃く染まり、色が美しいものが長い年月の中で脈々と受け継がれてきました。種から芽が出て葉が伸び（緑系の色）、花が咲き紅葉して（黄色や赤系の色素）、実ができ、枯れて（茶色系の色素）土に戻る…染料になる植物は、四季の中で一番色素の多い時期に収穫をして、あるものは生のまま、あるものは乾燥させて染めていきます。

自然の染めから得られる色は、ただの「色素」ではなく、それぞれの文明・文化の粋を集めた結果です。文学の中には様々な「色」にまつわる言葉があり、その「色」を通してそれぞれの文化や歴史に触れることができます。私の文学の中の「色」探しは本を開く度に継続中です。



乾燥した
丁子の蕾

図書館から こんにちは

皆様は、どんな媒体で本を読みますか？

紙の本、電子書籍、録音図書。その他の媒体で本を楽しまれる方もいらっしゃるかもしれません。

昨今、本の楽しみ方は「紙」に限らなくなりました。特に電子書籍は、テレビやネットで盛んに宣伝されていますから、皆様のお耳に入ったこともあるのではないのでしょうか。

しかしながら本稿では、図書館で働き始めて数か月になりました私の、「紙の本」についての感想をお伝えさせていただきます。

まず、紙の本の少し不便なところ。紙の本は場所をとります。あまり動かない本には埃が積もりますし、どの本がどこにあるか一目ではわからないので、図書館では毎年手作業で本の所在を確認しています。しかも、かなり重い本も。「紙ってなんて大変なんだろう」と、この数か月で何度も

「紙っていいな」を感じたい

静岡市立御幸町図書館 主事 石原 伶奈

思いました。

けれど同時に、「紙っていいな」と思うこともたくさんあるのです。

小さなお子様が、自分の顔よりも大きな絵本を大事に抱えて歩いているとき。10冊の本をリュックに詰めた方が生き生きと帰られるとき。新刊本の真新しいページを眺めているとき。それから、視界に収まりきらないくらい大きな本棚にずらりと並んだ、たくさんの本に囲まれているとき。

そういった、紙ならではの質量に触れたときに、「紙の本はいいな」と思う瞬間がやってきます。媒体が増えたことで、本の楽しみ方も多様となった今日。もしも皆様が紙の良さを感じたいと思われたら、ぜひ図書館に足をお運びください。「いいな」の雰囲気をお届けいたします。

市内図書館 ニュース

静岡市立中央図書館では、毎年、市民に身近な図書館で音楽に親しんでもらうため、静岡室内楽協会の演奏による「ライブラリーコンサート」と、高校生による「YAコンサート」を開催しています。

今年は「新しい生活様式」を実践し三密を避けるため、演奏は2階の吹き抜けで行い、お客様には1階の書架スペースで本を見ながら楽しんでいただきます。

初めての試みとなりますので、どうぞご来館いただき、本と音楽をお楽しみください。

新しい生活様式 に対応した 図書館イベント

静岡市立中央図書館 主任主事 飯田 幸

なお、静岡市立中央図書館は、大規模改修のため、**本年10月から来年7月中旬まで休館**させていただきます。皆様にはご不便をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

YAコンサート

日時：9月12日(土) 午後1時30分～2時30分
演奏者：静岡県立静岡東高等学校 マンドリン部

ライブラリーコンサート2020

日時：9月26日(土) 午後2時～3時
演奏者：静岡室内楽協会

2020年2月

インド 滑り込み訪問の記

サルナート



静岡図書館友の会運営委員 太田 典子

昨年4月臨濟寺降誕会(花まつり)法要の後、住職から案内があった。それは「臨濟寺、釈尊七大聖地とタージマハールの旅」だった。私と同年齢の住職は「最後の旅だ」と言われた。その時インドへの気持ちが大きく動いた。しかし予期せぬ大旅行、既にパスポートは期限切れ、10日間の留守。熟考の末結論を出した。「私は最初で最後の旅とし参加しよう」と。

国内の一人旅には出かけても海外しかもインドとは少々心細い。そこで言葉のできる旅慣れた身内を誘った。11月の説明会では僧侶11名、一般11名の参加者が添乗員より告げられた。

そして2月中旬「コロナ感染南インドに3人」のちょっと怪しい情報のもと成田から7時間。デリーに夕方到着。空港を出たとたんの喧騒と埃っぽさ。コロナもびっくりか。大きな野良犬もウロウロ。

バラモン出身だという立派な風貌の現地ガイド、クマールさんの出迎えを受け空港近くの雰囲気あるホテルへ。生花のマリーゴールドのレイで歓迎を受け部屋で荷を解きシャワー室へ。しかし異常に大きなシャワーヘッドから水は出ない。レイのおもてなしとの落差を感じつつ覚悟を決め早々にベッドへ。

こうしてインドの旅はスタートした。

翌日は空路1時間、ラクノーへ。最初の仏蹟参拝は祇園精舎。2500年前の僧院跡は土台が発掘され菩提樹の木々の間を平家物語冒頭「諸行無常の鐘の響き」ならぬ野生のサルが遊ぶ公園として整備されていた。

3日目は国境を超えネパールへ。釈尊生誕の地ルンビニ参拝。翌日再びインドへ。連日200キロ余をバスで移動。激しいクラクションの連続、通行区分はあってない道路は大渋滞。目的地への距離は分かっても時間

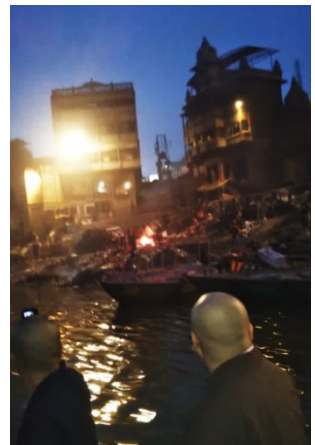


タージマハール: ムガール帝国五代皇帝が熱愛した王妃の墓 壮大な大理石の霊廟

の予測はつかないという。成道の地ブダガヤ・初説法のサルナート・涅槃の地クシナガラ等々、仏蹟各所で覚えたてのバーリー語「三帰依文」を唱和する。

釈迦の仏蹟は人口13億のインドで最も貧しい北インドにある。どこの仏蹟にも、道端にも子どもや老人の物乞いがいる。裸のあかちゃんを粗末なサリーで包んだ婦人には胸が痛んだがそれは演出だとか。行く先々のしつこい物売りにも閉口した。

そしてガンジス河の夜明け、岸边には火葬の炎、煙が上がり、沐浴するヒンズー教徒の姿。ご来光を拝みローソクを灯した花の小皿を船縁より川面に流し至極厳肅な気持ちになる。しかしここでも親子の物売りが我々の船にピッタリ横付。興醒めだった。



ガンジス河の夜明け 火葬の炎が見える

いよいよ旅も終盤。世界遺産タージマハールでは前日にトランプ夫妻が国賓として訪問。記念撮影したというトランプベンチで私達も写真を撮る。続いて16世紀ムガール帝国の王が幽閉されたアグラ城へ。謁見の間と並び図書室の遺構があったのには驚いた。

アグラから首都ニューデリーを経由再びデリー空港へ。ギリギリのタイミングで全員無事成田へ到着した。

帰国直後コロナ感染拡大のためインド入国禁止。その後ロックダウンに。「出稼ぎ先から故郷へ150キロ徒歩で帰る途中12歳の少女が死んだ。モディ首相が『私を許して』と謝罪した」との記事を読み、我々が数日前にバスで移動したあの道思った。ガイド、クマールさんがバラモン階級のため渋滞脱出交渉が有利だったとか。

たった10日間で見聞きしたインドの光と影。半年たった今でも「夢か現か」と思う出来事や風景がある。現地でもう一度確かめたいと秘かに思う私がいる。「最初で最後」のつもりだったが再訪し確認できる日がいつかあるだろうか。

ドリアン助川氏 講演会

※新型コロナウイルス対策のため延期した2020年3月7日の講演会を、今のところ下記にて実施の予定です。開催日が近づきましたら、ホームページが電話にて確認をお願いします。



私たちはなぜ生まれてきたのか？

小説『あん』で
ハンセン病回復者の人生を描いた理由

2020年
12月20日(日)
14:00～15:30
札ノ辻クロスホール



アーサー・ビナード氏 総会・記念講演会



2021年
3月6日(土)

静岡県総合研修所
もくせい会館1階 富士ホール

『3・11と福島の図書館員』

福島県立図書館司書 鈴木 史穂氏

会報第23号1ページに8月開催予定と予告しましたが、新型コロナの感染が再び拡大し、先行きがますます不透明になってきました。

今のような状況になる前に設定したのですが、その後事態が進み、現時点では予定を組むことが困難です。来年度に開催できればとは思いますが、詳細は来年になってからお知らせします。

講師プロフィール

日本図書館協会認定司書 福島県立図書館主任司書
平成25年8月 Best IFLA Poster 2013 受賞
(世界図書館情報会議(WLIC)・国際図書館連盟(IFLA)年次大会)
平成2年4月 福島県立図書館臨時補助職員
平成5年4月 福島県職員採用 福島県立図書館(司書)
平成20年4月 福島県立安積黎明高等学校(学校図書館司書)
平成24年4月から 福島県立図書館(主任司書) 現在に至る
その他
日本図書館協会『東日本大震災 あの時々の図書館員たち』編集委員会委員
日本図書館協会代議員

静岡図書館友の会会報 No.24 2020.9
静岡図書館友の会 代表 田中 文雄
連絡先:(事務局携帯) 080-6910-9434
Eメール:sizutomo2008@yahoo.co.jp
HP: http://shizutomo.sakura.ne.jp/
会員数: 217人 (2020.8月現在)

編集後記

バブルの崩壊を経ても、世の中はあんまり変わらなかった。東日本大震災があっても、やはりあんまり変わったようには見えない。今度のコロナは世界に何か変化をもたらすだろうか。コロナによって現在のシステムが一斉に止まったことにより、システムの中にどっぷり浸かっていた見えなかったシステムの姿が、少し見えるようになった。当たり前が当たり前でなくなったので、当たり前を疑い見直すことができるようになった。これは大きなチャンスだ。「新しい生活」ならぬ「新しい生き方」がこれから現れることを期待したい。(H.I)